

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和元年度第2回学校運営協議会
- 2 開催日時 令和元年10月10日(木) 13:30~15:00
- 3 開催場所 不破高等学校 ガイダンス室
- 4 参加者  
委員 竹内 治彦 岐阜協立大学学長  
和田 満 垂井町教育長  
中川 敏之 関ヶ原町教育長  
長谷川 妙子 関ヶ原町教育委員  
北澤 みさ子 宮代保育園・幼稚園園長  
高木 佐知子 地域住民  
高木 淳一 不破高校PTA会長  
  
助言者 西川 一明 宮代地区まちづくり協議会長  
  
学校側 内木 晃 校長  
橋 博 教頭  
小寺 弘春 事務長  
臼井 澄人 教務主任  
鈴木 孝慈 生徒指導主事  
岩田 眞和 進路指導主事

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 挨拶

- ・校長

#### (2) 近況報告

- ・教務主任、生徒指導主事、進路指導主事

#### (3) 学校運営にかかわる支援の検討

校長による学校運営に関する提案

- ・本日は、本校で実施した「地域×学校 連携フォーラム」に宮代地区まちづくり協議会長として参加していただいた西川一明氏に同席していただきご助言をいただくことにしています。ご了承ください。
- ・教育活動データより(実態把握)
- ・地域連携による高校魅力化の推進について
  - 地域×学校 連携フォーラム
  - 地域との協働による学校づくり「地域協働 課題解決学習」

#### (4) 意見交換

- ・大垣市で防災関係のNPO法人に携わっており、不破高生もその講習会に参加することで、地域の防災計画の観点から地域とつながっていけないか。
- ・「地域×学校 連携フォーラム」に宮代地区まちづくり協議会から数名参加。それまでは、不破高校の

- ことをよく知らず、サポートのしようがない状況だったが、不破高校のことを知るよい機会となった。
- ・不破高校の生徒が、宮代地区のいくつもの行事で参加あるいは手伝いをしてくれている。
  - ・連携フォーラムのワークグループに生徒が一人ずついたが、もっとたくさんいてくれるとよかった。
    - 生徒たちは、グループの中で発言することによって、自己肯定感を持てたようだ。
  - ・学習が苦手な生徒もいる中で、今後の学校の方向性についてどう考えているか。
    - 働き方改革の中で、地域連携を活かし、学校だけで教育するのではなく、地域に資源を求めることが必要ではないか。教育課程内外で地域の人を巻き込み、一緒に取り組んでいただくことにより、学校だけではできないことを手助けしていただきたいと考えている。
    - 地域と共に、多様な生徒へ関わることは、未知数ではあるが、新しい発見があるのではないか。
  - ・地域との連携により、何をすることが一番の課題である。
  - ・不破高校と似た高校で、全員にインターンシップをさせている例があるので、全員でのボランティア活動は可能ではないか。これまで地域活動には特定の生徒が参加することが多かったが、全生徒が地域に出ていくことを不破高校の教育の柱として据えるということではないか。
  - ・ボランティアを垂井町に限定せずに、各出身市町でボランティアに行くという発想もあるのではないか。居住地に貢献できることも重要であると考える。
  - ・関ヶ原町の企業に就職する生徒もいるので、関ヶ原町も地域として含めてもらいたい。関ヶ原町としても何か協力する体制を作っていかなければいけない。
  - ・校長の経営方針を具体化するために、学校所在地の長として、地域に学校のよさを知ってもらえる機会を作るのが責務だと思っている。自然科学部の発表や調査、スポチャン部の宮代の運動会での運営手伝いに地域の人が感動している。また、昨年の垂井町の学校教育講評会で司会をしたり、宮代小の卒業生である不破高生が宮代小の発表を見て感想を言ってくれた。今年度はフェアトレードのイベントで家庭科クラブの生徒が発表してくれたが、趣旨に合った分かりやすい発表をしてくれた。今度行われる垂井町の人権フォーラムでもパネリストとして参加してもらいたいと考えている。
  - ・町議会議員の中に、不破高校のために企業に声をかけてもいいと言っておられる方がいる。そういったお力もかりれるのではないか。資料にある仕事発見伝について、不破郡内の企業を調べ、就職フェアを学校で行ってはどうか。企業に学校に来て企業の魅力を話してもらい、生徒に就職先として考えてもらうことをしてはどうか。
  - ・私が役員をしている団体の役員会で、不破高生の活動について聞きたいという声がある。接点を大切にしながら学校を応援しようとする雰囲気があることをお伝えしたい。
  - ・ボランティア活動への参加について、ボランティアを紹介して参加募集をする場合と、自分たちで必要な活動を企画し、主体的にボランティア活動を行う場合がある。得手不得手があると思うが、それぞれの生徒に合わせたボランティアを考えていくと、生徒に自信がつくのではないかと考える。
  - ・本日、保育園に「こどもの発達と保育」を履修している70名の生徒が来てくれた。4人グループで、担当する園児が何に喜ぶのかを考えながら接してくれ、生徒たちは皆笑顔で、自信や自己肯定感につながったのではないかと感じた。
  - ・不破高在学時に保育園に実習に来ていた短大生が、保育実習に来てくれた。その実習生は、不破高校での学習で目標が見つかり、保育を勉強しようと思ったそうだ。このように、活動を通じて進路目標を見つけることができれば、学習意欲につながると思う。
  - ・「地域に根差し地域に貢献できる人材」とあるが、地域に出るためには基本的な生活習慣や基礎学力を身につけなければいけない。

## 6 会議のまとめ

- ・頑張っている生徒の姿をパネルで掲示し、在校生への波及効果を期待している。
- ・1日体験入学に来校された中学校の担当校長に、不破高生は自然体であいさつをしてくれると言っていた。
- ・許可制でアルバイトをしている生徒もいるが、アルバイト先で、予想以上に育てていただいているという印象がある。社会の厳しさを知ることができるので、アルバイトを推進してキャリア教育をしていくという極端な提案も有効なのではないか。
- ・地域の中で成功や失敗をしたり、少々厳しいことを言われる経験が必要なのではないかと。学校としてそのような場を提供するために、今後どのように地域連携を充実させていくかをワーキンググループで検討し

ていく。主体的に外へ出ていけない生徒にも機会を与えて、経験値を上げ、卒業後自立するための力をつけていきたい。

- ・地域が学校のことを思っただけしていることを機動力として、取り組んでいきたい。